

# あなたに薦める『この一冊』9月

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』ブレイディみかこ【著】新潮社

英語教諭 藤江 美帆  
中学 2年2組 担任



この本が描くのは、**英国に住む中学生の日常**です。少年が通う学校は上品で、優等生ばかりが集まる学校ではなく、人種差別やいじめ、貧富の差があり毎日が事件の連続です。そんな日々の中で、少年は自らのアイデンティティに悩みながら少しずつ成長しています。

状況は違っても、皆さんも自分と周りを比べて落ち込んだり、友人のささいな一言に傷ついたり、もやもやしながら日々を送っていると思います。逆に、自分が知らず知らずのうちに友達を傷つけていることもあるでしょう。

物語の中で、**エンパシー**という語が出てきます。少年はそれを「**自分で誰かの靴を履いてみる事**」と表現しています。自分と違う理念や信念を持つ人や、別にかわいそうとは思えない立場の人々が何を考えているのだろうと想像する力、とも書かれています。

頭で分かってはいても、他人の立場を考えた言動とは難しいですよね。他人の靴を履いてみる努力を人間にさせるもの。そのひとふんばりをさせる原動力。それは一体何なんでしょうか。皆さんがこの本と出会い、少年と共にそんな事を考えるきっかけになればと思います。

## ブレイディみかこ豆知識

保育士・ライター・コラムニスト。1965年福岡市生まれ。県立修猷館高校卒。音楽好きが高じてアルバイトと渡英を繰り返し、1996年から英国ブライトン在住。ロンドンの日系企業で数年間勤務したのち英国で保育士資格を取得、「最底辺保育所」で働きながらライター活動を開始。2017年に新潮ドキュメント賞を受賞し、2018年に大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション大賞候補となった『子どもたちの階級闘争——ブロークン・ブリテンの無料託児所から』（みすず書房）をはじめ、著書多数。 出典：東洋経済オンライン著者ページ

異文化を知ろう。世界を知ろう。

## 図書館所蔵関連図書

・ となりの席は外国人 あらた真琴【著】 ぶんか社



最近の公立小学校は意外とグローバル。言葉の壁も文化のギャップも、子供には関係ナイ!! 個性豊かな外国人親子が繰り広げる爆笑★異文化コミュニケーション。運動会に家族みんなでバーベキュー、姓名判断により急ぎよ改名、ワールドカップの日は学校を休む——など、ギョーテンエピソードが満載! 小学校講師×外国人児童の予測不可能コミックエッセイ!!

・ 『アメリカ女子♥日本女子』のリアル みゃびー【著】

17歳にして在外歴9年、ニューヨーク在住の女子高生みゃびーが、アメリカ女子と日本女子の違いをズバツと紹介。読めば「異文化理解力」が高まります。今すぐ使えるフレーズを掲載した「みゃびーの英会話フレーズ」のページも。学校で習う英語とはひと味違う、ネイティブフレーズだから今すぐ海外旅行、留学先で使えます。

KADOKAWA



・ 世界のともだち 長倉洋海(他)【著】 偕成社



「世界のともだち」は、36か国の子どもたちの暮らしを紹介する全36巻の写真絵本です。写真家が現地へおもむき、各国の子どもたちの家庭や学校、遊びに密着して写真を撮りおりました。美しい写真と楽しいイラストで構成した、偕成社創業80周年を記念したシリーズです。

## ★藤江 美帆(フジエ ミホ)先生の紹介★

\* 担当科目・クラス

英語a(中2年1組、2組)

英語b(中2年3組、4組)

\* 星座→うお座

\* 趣味

旅行。特に海外旅行では、初めて目にするものも多く刺激になるので大好きです。

\* 自分の中学・高校生活

部活と学校行事を全力で楽しんでいました!

\* 本校生の印象

個性豊かで、素直。

\* 感動した本

『君の臍臓をたべたい』住野よる【著】 双葉社

\* 読むことが望ましい本

『一億人の英文法』大西泰斗・

ポール・マクベイ【共著】 東進ブックス

・ 異文化理解入門 原沢伊都夫【著】 研究社



「説明を読む→問題を解く」の流れで、すんなり異文化理解を学べます。各章は楽しい「4コマ漫画」で始まり、筆者の体験談「異文化よもやま話」で締めくくられています。身近な異文化を意識することは様々な人間関係の向上に役立ちます。

・ 友だちになれば、きっと。 ガリト・フィンク&メルヴェト・アクラム・シャーパーン【共著】 鈴木出版

アラビア語で平和は「サラーム」。ヘブライ語では「シャローム」。たった15キロしか離れていない場所に住んでいながら、危険すぎて会うこともできないイスラエルとパレスチナの少女ふたりが、1988年から始めた文通の記録。



編集後記：Black Lives Matter運動をはじめ、今、世界の差別への意識は非常に高まっています。自分に何ができるのか、そして、どう行動するのか? 12月10日の世界人権デーはまだ先ですが、紹介した本などを読み、自分なりに考えてみてもらいたいと思います。

常翔学園中・高図書館